

パズルで能力・脳力をアップ!

パズル式あかね積木 開発者

伊藤 眞知子さん

**褒める教育を実践できる
「パズル式あかね積木」。**

赤や緑、黄色などカラフルな積木ピースをパズル式に木枠に納めていくだけという、一見単純に見えますが、実は遊びながら脳に刺激を与える頭脳ゲームとして、その効力を認められているのが「パズル式あかね積木」。開発者の伊藤眞知子さんは、15年前、最初のパズル「シースー」を考案。

以後、難易度や形の違うパズルを約20種類作り上げています。

現在、みよし市で「パズル式あかね積木ネットワーク」を開設し、積木を使った学習教室や子育て支援活動を行う伊藤さん。学校教師や、塾講師として長年教育現場に携わるうちに、年齢や学習歴、知的レベルに関係なく、同じステージで誰もが一緒に楽しめる学習環境を作りたいと感

じるようになったといいます。

「パズルだと勉強の成績とは関係なく、勉強の苦手な子が一番最初にサツとできたりすることも。皆に褒められ、達成感を味わい、自信がつくと、子どもはどんどん積極的な態度に変わります。また、皆と一緒に遊ぶことで、パズルは親和や共感を生み出すコミュニケーションツールにもなります」

すぐには完成しないパズルに、粘り強く取り組むことは、柔軟な思考力や空間認識能力を育むだけでなく、集中力を高めるのにも効果的。また、パズルの完成パターンは「シースー」だけでも一万通りもあるそうで、一度完成したら終わりではなく、ひとつのパズルでどんなステップアップしながら遊べます。さらに難易度の高いパズルに挑戦したり、二人遊びだけでなく、グループで大きな作品を作れるパズルなどもあり、楽しみ方は尽きません。

「このパズルには脳の働きを段々よくする仕掛けがいろいろあるんですよ」と伊藤さん。今では豊田市、みよし市のほとんどのこども園に「シースー」が導入され、高い評価を得ているそうです。

**ただ夢中になるだけ!
老若男女を問わず効果。**

伊藤さんは、子どもの学習能力アップのためだけでなく、認知症の予防・支援にも着目。4年の歳月をかけ、「パズル式あかね積木」の高齢者への効力を調査研究し、08年にはその研究論文が日本農村医学会最優秀演題発表賞を受賞。病院や福祉施設にもパズルが取り入れられるようになりました。

積木を使った教室や授業指導、講演依頼なども多数寄せられ、全国規模で活躍する伊藤さんは、「子どもの成長に不安を持つ、子育てママの直接支援に加え、講師の育成も今後の重要な課題」といいます。これからも、幅広く活用できる「パズル式あかね積木」は、ますます注目を集めることでしょう。

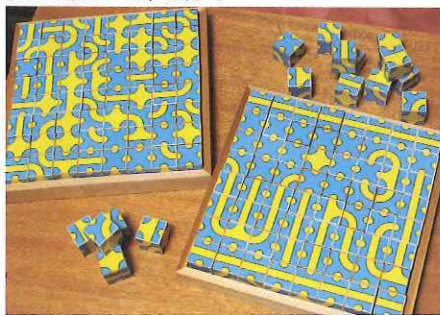
昭和28年生まれ。愛知みずほ大学大学院卒、教育研究家。学校教員、塾講師として幼児・児童の教育に携わり、「パズル式あかね積木ネットワーク」を設立、理事就任。趣味は映画とクラシック音楽鑑賞。

パズル式あかね積木ネットワーク
みよし市三好町上9-1
☎0561-57-5643
http://www.akane-tsumiki.jp

PRESENT 2
「一つ違い 6色(解説書付)を5名様に!
詳しくはP20をご覧ください。」



ひらがなやカタカナ、いろいろな模様や絵などが描けるパズル「どっちも」36ピース7,500円〜。



伊藤さんが最初に考案した「シースー」3,600円。

